

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-061911

(43)Date of publication of application : 18.03.1987

(51)Int.Cl. A61K 7/02

(21)Application number : 60-203064 (71)Applicant : NOEBIA:KK

(22)Date of filing : 12.09.1985 (72)Inventor : SHIOKAI YOSHIKI

YAMAMOTO YASUYUKI

BABA HAJIME

IKEDA SHINYA

OTSUKA MARIKO

(54) MAKEUP COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a makeup cosmetic containing a volatile oil, a film-forming powdery base and a plasticizer as essential components, giving durable makeup, resistant to the migration of color, giving excellent feeling to the skin and having high safety.

CONSTITUTION: A makeup cosmetic giving excellent feeling and durable makeup to the skin, resistant to the migration of color, having high safety and storables stably for along period can be produced by using a dimethylpolysiloxane (having a viscosity of 1.5cst) in combination with a cyclic polydimethylsiloxane (pentamer and/or hexamer) as volatile oil and compounding the oil with 1pt. of a powdery base, 0.1W1.0pt. of a film-forming agent and 0.1W0.9pt. of a plasticizer.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 昭62-61911

⑬ Int.Cl.¹
A 61 K 7/02識別記号 庁内整理番号
7306-4C

⑭ 公開 昭和62年(1987)3月18日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全 6 頁)

⑮ 発明の名称 メイクアップ化粧料

⑯ 特願 昭60-203064

⑰ 出願 昭60(1985)9月12日

⑱ 発明者 塚 貝 芳樹 守山市浮気町 グランドメゾン守山4-1324

⑲ 発明者 山 本 泰 之 滋賀県野洲市野洲町小篠原1669-82

⑳ 発明者 馬 場 一 八日市市中小路町637-2

㉑ 発明者 池 田 新也 八日市市中小路町637-2

㉒ 発明者 大 塚 真理子 八日市市東本町9番13号

㉓ 出願人 株式会社 ノエビア 大阪市東区安土町4丁目19番地

㉔ 代理人 宮 下 端

明細書

1. 発明の名称

メイクアップ化粧料

その目的とするところは、落ちにくく、色移りがなく、使用感が良く、かつ安全性の高いメイクアップ化粧料を提供するものである。

2. 特許請求の範囲

- (1) 通常性油剤、接着形成剤、粉体基剤、可塑剤を必須成分として含有することを特徴とするメイクアップ化粧料。
- (2) 通常性油剤が、低分子ジメチルポリシロキサン (粘度が 1.5センチストークス) および環状ポリジメチルシロキサンからなる特許請求範囲第1項記載のメイクアップ化粧料。
- (3) 環状ポリジメチルシロキサンが 5 倍体および/または 6 倍体である特許請求範囲第1項記載のメイクアップ化粧料。

〔従来の技術〕

従来あるメイクアップ化粧料においては接続的に、皮脂や汗の分泌により落ちてしまったり、またなどのように常に運動している部分ではその物理的影響で落ちてしまったり、物に触れたとき色が移ったり(以下虹色と称す)して化粧直しの手間、衣類、物が汚れるなどの欠点を有していた。

そこで、上記欠点を解決するために、化粧料組成に揮発性油剤を加え、塗布後、通常性油剤の揮発により、堅固な塗布膜を形成することができるメイクアップ化粧料が開発され、何種か商品化されている。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、新規なメイクアップ化粧料に関し、

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかしながら、これらは落ちにくさという点では十分に機能を有してはいるが、揮発剤を配合し

特開昭62-61911 (2)

ているために安全性に劣るという欠点を生じている。また、これらの揮発性油剤は揮発性が高いため、布団の気密性に細心の注意を払う必要があつたり、塗布時ののが悪くなるなどの使用上の問題も生じている。

逆に、低揮発性の油剤を使用すると、他の原料との相溶性が悪くなり製品の安定性が低下したり、塗布後の乾燥時間が長くなり軽めしやすくなる。

【問題点を解決するための手段】

そこで本発明者は、係る事情に鑑みて検査研究を行なった結果、揮発性油剤としてジメチルポリシロキサン(粘度 1.5CS)と環状ポリジメチルシロキサン(5 量体および/または 6 量体)とを併用することにより、各々単独で用いた場合に比べて上記の欠点が大きく改善されることを見い出し、本発明を完成させるに至った。

本発明品の安全性を確認するためにこれらの揮発性油剤と、一般に化粧料によく使用されている揮発性油剤について皮膚一次刺激性試験を行

った。試験は Draize 法に準じた。結果を表 1 に示す。

表 1. 皮膚一次刺激性試験

(表中の値は刺激性を示す)

試験時間	24時間	48時間	72時間
ジメチルポリシロキサン(1 CS)	4.17	5.00	4.83
*ジメチルポリシロキサン(1.5CS)	0.17	0.17	0
環状ポリジメチルシロキサン 4 量体	4.33	4.17	3.00
*環状ポリジメチルシロキサン 5 量体	0.33	0	0
*環状ポリジメチルシロキサン 6 量体	0.33	0	0
イソパラフィン(炭素数 8)	5.00	5.00	5.00
イソパラフィン(炭素数 9)	5.00	4.83	4.83
イソパラフィン(炭素数 10)	4.00	3.83	3.67

* 本発明に用いた揮発性油剤

本発明を構成する他の成分は、被膜形成剤、粉体基剤および可塑剤であり、本発明に用いられる被膜形成剤は、セレン、オゾケライト、マイクロクリスチリンウオクス、圓形パラフィン、ミツロウ、カルナウバロウ、キャンデリラロウ、硬化油、エボキシ樹脂の高級脂肪酸エステル、ポリエチレン、ジメチルトリメチルポリシロキサン、キノメチルポリシロキサン、アビエチン酸グリセリンエステルの一種又は二種以上の組合せがのぞむ。

本発明に用いられる初体基剤には、通常化粧料に用いられるもので、例えばタルク、マイカ、カオリソ、セリサイト、硬化チタン、硬化錫、荷重顕料、グンジョウ、コンジョウなどが挙げられる。

本発明に用いられる可塑剤には、通常化粧料に用いられる液状またはペースト状油分で、例えばスクワラン、ヒマシ油、没薬パラフィン、エーテルヘキサン酸セチル、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、ミリスチン酸オクチルドデシル、オクチルドデカノール、ワセリン、ラノリン、ジ

ベンタエリトリット脂肪酸エスチル、ラノリン等の媒体、流動ポリイソブチレンなどが挙げられる。

さらに、本発明のマイクアップ化粧料には、上記成分のほか、水、乳化剤、顔料、染料、顔料分散剤、香料、防腐剤、パール剤、樹脂等を適量添加することができる。本発明の落ちにくく、着色せず、使用感が良く、かつ安全性の高いマイクアップ化粧料を調達するには、油性系の場合、粉体基剤(1~5.0 重量部)に剝し、揮発性油剤(1.0~6.0 重量部)、被膜形成剤(0.5~4.0 重量部)可塑剤(0.5~4.0 重量部)を加えて混練するものであり、乳化系の場合には、さらに乳化剤、精製水、保湿剤等を本流被膜を油相として乳化させるもので、性状によってはチューブ充填、滴込み充填などの商品形態となるものである。

本発明の最大目的とする着色しないという条件を満足させるには、被膜形成剤と可塑剤と粉体基剤との配合比が重要であり、肌へ塗布したのち、揮発性油剤が揮発後これらが被膜となるわけで、これら比率は、粉体基剤に対し、被膜形成剤が

特開昭62-61911 (3)

0.1～1.0、可塑剤が0.1～0.9の割合で配合するものが最も好ましい。

可塑剤の比率が高くなると、被膜の強さが弱くなつて物理的な影響でたやすく変色しやすくなり、また小さくなると、肌に違和感を感じたり、のびがわるくなつたりなどの傾向があらわれる。

後膜形成剤の比率では、その逆の傾向を示す。よつてこれらの配合比には十分注意を払う必要がある。

(実施例)

本発明について実施例をあげてさらに説明する。これらは本発明を何ら限定するものではない。

安全性試験方法

(1) 試験方法

21～43才の健康な女性20名を被験者とし、実施例1および、従来品の比較例1を試料として48時間間隔パッチテストを行なつた。

(以下余白)

④判定方法

48時間間隔貼布後剝離し、剝離2時間後、24時間後に以下の基準に従い判定を行つた。

-	無反応
±	疑陽性
+	陽性
++	紅斑および丘疹

(2) 薬方および製造方法

表2 ファンデーション実施例1と比較例1の薬方

原 料 名	実施例 1	比較例 1
(1) 現状ポリジメチルシロキサン6量体	20.0	-
(2) 現状ポリジメチルシロキサン4量体	-	20.0
(3) デジメチルポリシロキサン(1.5 CS)	15.0	-
(4) マイクロクライストリニングラックス	10.0	10.0
(5) 2-エチルヘキサン酸セチル	9.0	24.0
(6) セノメチルポリシロキサン	0.5	0.5
(7) デキストリン脂肪酸エステル	2.0	2.0
(8) クルク	14.5	14.5
(9) 脱化チタン	15.0	15.0
(10) ベンガラ	0.7	0.7
(11) 青酸化鉄	3.1	3.1
(12) 黑酸化鉄	0.2	0.2
(13) マイカ	10.0	10.0

製造方法

(1)～(7)を75～80℃にて加熱溶解する。これに前述混合物均一化した(8)～(9)を加え混練した後、三本ローラーにて分散処理し、実施例1、比較例1のファンデーションを得た。

⑤結果

表3. パッチテスト結果

反応	実施例 1		比較例 1	
	2時間後	24時間後	2時間後	24時間後
-	20	20	6	8
±	0	0	6	5
+	0	0	7	6
++	0	0	1	1

以上の結果から明らかのように本発明品である実施例1のファンデーションの安全性が確認された。

特開昭62-61911 (4)

ここで、食器への転色のテスト方法は、口紅塗布5分後、5秒間口に白色のコーヒーカップをくわえ、肉眼にて口紅のコーヒーカップへの移りぐあいを判断する。

ティッシュでのとのテスト方法は、口紅塗布5分後、ティッシュの移りぐあいを判断する。

(以下余白)

転色試験方法

①試験方法

実施例2および比較例2について下記の試験を行なった。

①試料に紫外線吸収剤エスカロール507 (2-Ethyl Hexyl p-Dimethylaminobenzoate) を4%添加し、この試料の一定量(20mg)を人前腕内側の一定面積(16cm²)に塗布する。次ぎに皮膚接触部に試験紙を発色した器具で、塗布部を2kg/cm²で押圧を3回繰り返した。

試験紙から紫外線吸収剤をエタノールで抽出し、ロ立ダブルビーム分光光度計 220型を使用し 310nmの吸光度を測定した。

転色度は以下の式により算出した。

$$\text{転色度} = \frac{\text{試験紙抽出液の吸光度}}{\text{試料抽出液の吸光度}} \times 100$$

②女性30名からなるパネルにより、べたつき感、のび、化粧持ち、密着感、食器への転色、ティッシュでのとの5項目につき、5段階評価で行なった。なお、点数が高いほど良好なことを示す。

②検査および製造方法

表4 口紅実施例2と比較例2検査

原 料 名	実施例2	比較例2	比較例3
(1)環状ポリジメチルシロキサン5量体	20.00	-	-
(2)ジメチルポリシリコキサン(1.5 CS)	20.00	-	-
(3)ジメチルポリシリコキサン(2 CS)	-	-	20.00
(4)四氫パラフィン	2.50	2.50	2.50
(5)ミクロウ	8.00	8.00	8.00
(6)ポリエチレン	10.00	8.00	8.00
(7)ワセリン	9.50	9.50	9.50
(8)ブチルヒドロキシトルエン	0.05	0.05	0.05
(9)ヒマシ油	-	42.00	22.00
(10)酸化鉄鉱度 遮光チタン	20.00	20.00	20.00
(11)赤色 202号	2.20	2.20	2.20
(12)赤色 201号	1.70	1.70	1.70
(13)黄色 4号のアルミニウムレーキ	0.80	0.80	0.80
(14)タルク	5.25	5.25	5.25

製造方法

(1)～(9)を95℃にて加熱溶解する。これに別途混合粉均一化した(10)～(14)を加え混練した後、三本ローラーにて分散処理し、実施例2、比較例2の口紅を得た。

③結果

表5. 第1法による結果

サンプル	実施例2	比較例2	比較例3
転色度(%)	1.5	29.1	1.0

表6. 第2法による結果

使用テスト	評価点(平均点)		
	実施例2	比較例2	比較例3
べたつき感	4.7	2.1	1.4
のび	4.3	4.5	1.1
化粧持ち	4.8	1.3	4.5
密着感	4.2	3.0	3.2
食器への転色	5.0	2.2	4.8
ティッシュでのとの	4.8	1.9	4.5